

2010 年度活動結果報告

1. 総括的な活動結果と会員数の推移

(1) 2010 年度 NALC「天の川クラブ」の活動

NALC「天の川クラブ」(以下「天の川クラブ」という。)として取り組む課題として7点を掲げましたが、これらについて、振り返ってみると次のとおりです。

A. ひとり暮らし高齢者への電話・訪問活動の推進

一昨年度から取り組んできました「声かけボランティア」については、12月より70歳以上のひとり暮らしの会員や希望する会員への活動をスタートさせました。利用者からのお礼状や離れて暮らす親族からも「自分たちも声かけをします。」と、この活動に賛同をいただいています。

B. 時間預託活動・奉仕活動・同好会・クラブ活動のバランスの良い推進

時間預託活動については、認定 NPO 認可申請に備え、福祉施設に対する賛助会員への入会と受託契約の推進を実施しました。

奉仕活動については、福祉施設の喫茶ボランティアをはじめ、2月よりスタートした「親子広場支援ボランティア」など活発な活動を展開してまいりました。

同好会・クラブ活動については、既存の文化・スポーツ活動にとらわれず、新しいクラブの開設も期待しましたが、残念ながら新設はありませんでした。

“ふれあいルーム「天の川」”のオープンを機に、既存・新設を問わず積極的な活動を期待します。

C. 時間預託管理システムの開発協力

NALC 活動管理システムの開発については、利用する拠点の立場で、現在利用しているソフトの問題点の解決を含め積極的に協力し、4月より試行を開始していますが早期移行に向け引き続き取り組んでいきます。また、ソフト開発資金の確保を目的として新設された「本部定期預金」制度に協力し、3百万円の資金を本部に預金しました。

D. 拠点連絡会議の定期開催

昨年度発足したナルク「北河内地区拠点間連絡会議」は、2回目寝屋川拠点、3回目東大阪・大東拠点で実施するなかで、情報交換・相互啓発・課題解決・共同参加等、生きた連絡会が定着してまいりました。

E. 新しい公共を地域でつくる活動の検討

本年は、地域の諸団体・NPO・ボランティア団体や自治体との連携を密にして新しい地域の公共を実現し「天の川クラブ」の新たな活動を拡大するため、渉外担当が関係部署との意見交換や可能性の検討を進めてまいりました。

F. 「地区会」の充実

2004年に発足した地区会も6年が経過しました。本年度は、各地区に運営委員1名以上を配置することができました。地区会設立の原点に戻り、地域の会員の

顔が見え、お互い連帯を深めた活動をするなかで、運営委員・地区世話人・手配り担当との連携をはかり、地区会の活性化について検討を進め、懸案の連絡網の確立と地区会の役割について検討してまいりました。

G. “ふれあいルーム「天の川」”のオープン

会報4月号でお知らせしました、“ふれあいルーム「天の川」”につきましては、「天の川クラブ」も800名を超える会員となったため、事務所も手狭になり、気兼ねなく立ち寄れる場所を探していました。幸いにも現事務所のひとつ隣の部屋が空きましたので交渉の結果、急遽家主と交渉し現事務所より有利な条件で借用することが出来ました。

(2) 会員数の推移

会員数は、年度初め794名、年度末815名で21名の増加でした。

入会者は81名（再入会5名含む）・退会60名（死亡12名含む）

2. 時間預託活動（会員相互扶助・福祉施設支援ほか）

担当 近藤秀子

会員相互扶助活動は、計画3,360点に対し実績3,419点でした。福祉施設支援活動は、計画2,930点に対し実績2,974点でした。

会員相互扶助活動は、ナルクの活動の大きな柱です。会員同士が助け合って、生活を支えあい、且つその活動が会員の生きがいにつながります。それこそが介護予防になります。

福祉施設支援活動は、計画通りの実績でした。新規施設への活動は控えていますが、新しく活動される会員が少しずつ見られるのは良い傾向です。施設入居者にとっては、日替わりで提供するボランティアよりも毎日同じ人が対応する職員の方が喜ばれるようですが、人手不足もあり、話相手としての活動者を求められています。

(1) 会員相互扶助活動

家事・介助は、新しく「声かけボランティア」活動が始まりました。利用申し込みは11名とまだ少ないですが、今後会員の高齢化とともに増えるものと考えます。

送迎は平均的に推移しています。ハウスヘルパーは依頼内容が多岐にわたってきています。

庭の手入れは、定期的な利用があり、順調に伸びていますが、剪定提供者の確保が十分でなく、提供者の育成が急がれます。

パソコン指導はパソコン買い替えによる習得希望がありました。トラブル対応の単発ヘルプも多くあり順調に推移しています。

(2) 福祉施設活動

「サンセール香里園」活動は、「脳の健康教室」の提供者研修会を実施した結果、従来活動をしていなかった会員が多く受講され、活動するようになったことは良い結果です。「習字教室」「おやつ作り」「生け花」「茶道指導」なども長年の活動

として定着しています。

「グループホーム花梨」は、習字の指導を通じて入居者との交流が深まり喜んでいただいています。

「エイジフリー・ライフ星が丘」は、リビング活動を減らして「話し相手」を増やすよう依頼を受けていますが、活動者が不足しています。各施設とも活動種別ごとに提供者がリーダーを受け持つことでコーディネーターの負担を軽減しています。

3. 奉仕活動

担当 三津輝雄

(1) 福祉施設の活動

「サンポエム」の活動は、ほぼ毎日提供しています。新しく依頼があった喫茶コーナーの活動も現在は週2回になっています。新しい活動者も増え施設からは感謝されています。「サンポエム」「エイジフリー・ライフ星が丘」「聖徳園」の季節行事も定期的に依頼があります。その他、『遊びの玉手箱』チームが4カ所の施設でミュージックベルの演奏活動をして好評を得ています。

(2) 子育て支援活動

志希自然小学校は、子供たちが成長し現在子供の参加者は1名で、本来の目的を満さない状態となり、次年度は再検討となる予定です。

子供安全見守り隊の活動は、奉仕活動報告書を提出している会員が10数名です。独自の活動であっても申請していただければ、ナルクの奉仕活動として点数が付与されます。

ふれ愛・フリースクエア活動の「竹遊会」は5回、『遊びの玉手箱』は6回の活動でした。各校とも運営が充実してきたため、依頼件数が少なくなってきました。

親子広場支援ボランティアの活動は、新規の活動として2月からスタートしました。お母さんとお子さんが集まる施設で会員がお手伝いする活動です。現在2カ所で定期的に活動していますが、今後は各地区でこの活動を広げて行くようにしたいものです。

(3) 環境美化活動

「クリーン・アダプト」活動は、2カ所ともほぼ計画通りの実績でした。

「アダプト・リバー・NALC 天野川」は、活動者が少なく参加者の負担が大きいため、天野川近辺会員の積極的な参加が望まれます。地域団体が協働で年1回実施している「天野川大清掃」への参加者も減少しています。

(4) ナルク外部活動

「NPO フェスタ」「てくてくどんどん」「さくらまつり」などの地域団体のイベントに協力してボランティア活動しました。

(5) ナルク内部活動

2010年12月から活動を始めた「声かけボランティア」は、孤独死をなくす目的の定期的な電話による安否確認の活動で、現在11名の利用者です。

事務局では、事務作業の増大と活動区分別交流会など会議が増えています。

4. 事業活動

担当 野村文夫

NALC の理念「自立、奉仕、助け合い、生きがい」を「天の川クラブ」に於いて達成するための活動を資金面で支援するとともに、枚方市の「在宅生活援助事業」、高齢者の生きがい支援活動としての「生きがい創造学園」及び「生涯学習情報プラザ」の運営に寄与するための活動です。

(1) 在宅生活援助受託事業

従来からの制度による利用者は各月 10 名前後で、週 2 回の方が 3 名、他は週 1 回となっています。制度発足 2 年目となった要介護・要支援の方の為の利用は 4 月～9 月 24 名、10 月～3 月 78 名、提供者も 204 名と大きく増加しました。

新しい制度が「広報ひらかた」や包括支援センターからの情報で市民に周知されてきたこと、家事・介護支援の会員や男性会員の積極的な提供活動によって利用者の満足が得られたことが大きな要因と思われます。

(2) 生きがい創造学園受託事業

受講者の声を尊重し、短期講習の見直しと、パソコン機種の変更に伴うカリキュラムの改正や指導方法の工夫を心がけました。

生きがい創造学園受託事業は、市民が自由に学び「生きがい」にチャレンジする暮らしづくりに向けて、各種の講座を実施している学園で、受託してから 8 年を経過し順調に運営してきました。

(3) 生涯学習情報プラザ受託事業

生涯学習情報プラザ受託事業は受託してから 6 年を経過しました。

子供たちの利用が 30%から 23%に減少、このことは総利用者数に影響し前年度比 93%になりました。子供たちに好ましくないゲームやサイトについては、個別にロックを実施しました。

パソコンミニ体験（大人対象）は、ワード・インターネットの受講が大きく伸び、受講生のスキルの向上が推進できました。

施設利用については、総利用率は幾分向上し、特に一般の利用が伸びており期待するとともに、今後新規だけでなくリピーターの確保のため親切的な対応を心がけます。

5. 文化・スポーツ活動

担当 石西正子

2010 年度は、文化活動 8 クラブ、スポーツ活動 4 クラブが活発に活動し 2,558 名が参加、会員の交流と親睦を深めました。また、地区会や誕生月会にも、文化活動クラブが参加して盛り上げました。

竹遊会、『遊びの玉手箱』楽しいオカリナ、マジック友の会の各クラブは、小学校や施設におけるふれあいの場を通じて、地域にも貢献してきました。

ゴルフクラブは、他拠点（交野、寝屋川）との合同開催も実施し、交流を深めま

した。今年度は新しいクラブの発足はありませんでしたが、今後“ふれあいルーム「天の川」”を活動場所として大いに利用していただき、趣味の集いの中から新しいクラブが誕生することを期待します。

6. 会員活動促進

担当 庫本方明

会員数は800名を超えることになりましたが、できるだけ多くの会員の方が気軽に活動できる環境を整える意味で、会員相互の顔が見える場作りのための各種会合・イベントや各種のレベルアップ研修会を実施しました。

(1) 地区会

本年度は、各地区に運営委員1名以上配置することができた。地区会設立の原点に戻り、地域の会員の顔が見え、お互い連帯を深めた活動をする中で、運営委員・地区世話人・手配り担当との連携をはかり、地区会の活性化について検討してまいりました。

地区会の運営方法・活動内容には10地区十色となっていますので、本年度はまず、情報の伝達や収集を円滑にするための連絡網と地区会の役割について整理してまいりました。お互い会員が協力し合って常に生き生きと活動できる地区会のベースができたと考えています。

また、「声かけボランティア」をはじめ、地区内での活動はできるだけ地区内で対応できるよう、各活動との連携を密にした地区会体制が整いつつあります。

(2) 会員研修

昨年度に引き続き、会員のボランティアとしての知識・技能の向上を図るため、シニア介護サポーター養成講座(13名参加)・コーディネーター養成講座(14名参加)のほか、新しくミニ講習会としてAED講習(40名参加)を実施しました。コーディネーター養成講座は、楽しく受講できたと他拠点からの受講生にも好評でした。そのほか本部主催のコーディネーター・レベルアップ研修会にも参加しました。

(3) イベント

本年度の『秋のつどい』は、交野市の星の里「いわふね」にて「天の川クラブ」単独で実施し212名の参加がありました。「西浦達雄のライブ」と会員による「おじーんず」のフォークソングで盛り上がりました。日帰り旅行も「関宿と御在所岳」には44名の参加で紅葉狩りを楽しみました。

(4) 活動区分別交流会

本年度は、20回、延べ320名の参加で、お互いの情報交換と親睦を深めました。「天の川クラブ」には約50以上の活動区分がありますが、まだ交流会を開催していないグループもあります。

(5) 誕生月会

2009年9月より開催している誕生月会は2年目に入り、世話役の工夫で毎回楽しい出し物やゲームを企画し、本年度は6回実施して述べ115名の参加でした。

(6) 天の川サロン

本年度より、毎月第 4 金曜日に事務所で、会費 100 円で楽しく語り合ったり、手芸などを教え合ったりしてお互いに楽しむ中から、ボランティア提供活動への参加のきっかけ作りをしました。

7. 事務局活動

担当 和田亮吉

事務局業務は、会員が提供した活動報告書をチェックしパソコンに入力する作業をはじめ、HP・会報作成・手配り・会計・事務所当番など多岐にわたる業務があります。

2010 年度も毎月事務局のスタッフ会議を開催し、日々の問題に取り組んでまいりました。

設備については、パソコン・印刷機などの老朽化が進み更新の時期が来ています。また、来所者の増加にともない事務所が手狭になっています。